

福岡県立小倉聴覚特別支援学校

自己評価					
学校運営計画(4月)					
学校運営方針	専門性を生かして、一人一人の障がいの状態に応じた支援と共に確かな学力の育成を図り、各関係諸機関との連携及び協働と学校間の連携を推進する。また、地域のセンター的機能を担い聴覚障がい教育の理解と啓発を図る。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
<成果> ・感染症対策を徹底し、安心・安全の体制で教育活動が行われ、幼児児童生徒がとても明るく元気に活動することができた。 ・子どもたちの実態に応じたICT等を活用した授業の工夫がなされた。 <課題> ・感染症対策を徹底し、安心・安全な生活が送れる教育環境のさらなる充実 ・ICT等を活用した授業改善 ・新しい生活様式に合わせて、地域社会と積極的に関わり、社会に開かれた教育活動の展開とセンター的機能の充実	健康で安全・安心な学校づくり ※ 感染症対策の徹底	「安全点検」や「緊急時シミュレーション等を通して、危機管理意識と対応能力を高める。 カウンセラー等の人材活用も図り、悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。 食育並びに体力の向上を推進し健やかな体づくりを図る。 幼児児童生徒一人一人の実態把握に基づいた系統性・連続性のある指導を行う。 専門性を高める学校研究等を中心とした校内研修とICTを活用した学習・指導方法の改善に努める。 学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神等自律的に成長できるための取組を行う。			
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と「鍛ほめ福岡メソッド」の展開	一人一人の特性に応じた読書活動の充実を図る。 道徳教育や体験活動の充実を図り、他者と共によりよく生きるための道徳性を養う。 学習発表会等多様な表現や鑑賞の活動を推進する。			
	豊かな心や創造性の涵養を目指した道徳教育や学校行事の充実	障がいに対する認識を深めると共に、コミュニケーション能力の伸長を図る。 他校や地域との交流を推進し、社会性、協調性を育成する。 自立活動やキャリア教育の系統化を図り、希望進路の実現を図る。			
	自立や社会参加を目指した子供の育成	PTAや同窓会との連携・協働の強化に努める。 地域の信頼に応えられる教育相談体制と施設設備の充実を図る。 学校ホームページや学校開放を通して聴覚障がい教育に関する理解や啓発活動を推進する。			
	保護者や地域と連携した開かれた学校づくり				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
各学部	幼稚部	幼児の実態に応じて年間指導計画や個別の指導計画を作成し、行事などの事前事後学習、日々の活動を計画的に行う。 個々の実態や課題を共有し、活動のねらい達成に向けた効果的な手段や内容を検討し、環境構成を行う。	B A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園交流や地域交流、校外学習等の行事を計画的に実施する。</li> <li>・学級間の関わりを増やし、幼児同士のやり取りの機会を増やす。</li> </ul>
	小学部	コミュニケーション能力や学力の向上を目指し、基本的な生活習慣や社会性を身に付けさせるとともに、豊かな心身を育成する。	A A		
	中学部	学力向上を目指し、適切な実態把握に基づく個に応じた指導の研鑽・充実に努める。家庭、地域との連携に努め、諸行事や体験活動を通じて、生徒の主体的に生きる力を育む。	A B		
学務部	教務	実態や学習の状況等に関する教師間の情報交換・共有を密に行い、よりよい指導・支援の在り方について検討する。 生徒一人一人が役割を果たす場面を設定し、達成感や成就感を味わうことができるようにする。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画書の書き方が学部によって異なる点があったため、記入例を作成し、一貫性のある計画のもと、指導できるようにする。</li> <li>・様式変更となった内容について整理を行い、指導に生かす。</li> </ul>
	情報	校内ネットワークや情報機器等の管理・整備を行い、情報発信と教員のICTを活用した実践的指導力の向上に努める。	A B		
	庶務	保護者や職員、同窓会等との連携を図り、本校教育活動の円滑化に努めるとともに、学校行事等の広報活動を行い、本校教育活動の理解啓発を図る。	A A		
キャリア教育部	進路指導	幼児児童生徒一人一人に応じた進路指導を通して自らの進路を主体的に切り拓く力を育み、希望進路の実現を図る。	A B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画する研修会等の内容の充実を図る。</li> <li>・対象となる生徒全員の職場見学・体験の計画的に実施する。</li> </ul>
	研修	学校研究や各種研修を設定することで聴覚特別支援学校教員としての専門性を向上させる。また、職員の関心が高まるように積極的に各種研修会等の情報提供をする。	A A		
	聴覚障がい教育	聴覚障がい教育に関する専門性の向上を図り、自立活動の充実を目指す。 自立活動指導内容表や教材等の紹介、研修や学習会の企画・実施を行う。	A B		
生徒指導部	中核機能強化事業	地域の聴覚障がい児(者)及び関係機関のニーズに応じた支援を行うとともに、各関係機関との連携を深め、聴覚障がい教育のセンター的機能の充実を目指す。	A B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間の学校研究の成果を活かし、新しい主題に取り組む。</li> <li>・研修参加への関心がより進むよう案内の仕方を一層工夫する。</li> </ul>
	生徒指導	職員間で適宜連携を図りながら、障がいの状態や家庭状況等を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。	A A		
	学校安全	安全管理、危機管理に留意し、組織として安全な教育環境の整備に努める。	A A		
人権同和教育	保健	幼児児童生徒の心身の健康の保持増進を図るとともに、感染症対策の徹底および校内環境の整備に努める。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態連絡会の報告内容を精選し、より効果的な共通理解を図る。</li> <li>・職員のニーズに合った研修会等の企画・実施を行い、一層の専門性向上に努める。</li> </ul>
	全職員の人権教育に関する共通理解を図り、幼児児童生徒が個々の障がいの状態や発達段階、特性に応じた人権感覚を身に付ける指導の体制を整える。	資料や研修図書等を紹介したり各種研修会の情報提供を行ったりし、職員の共通理解や積極的な研修への参加を促す。 全教員が人権教育に関する授業計画にもとづいて、授業実践を行う。	B A		
	生徒指導	避難経路を見直すとともに、新たな避難経路を作成して校舎内に掲示し、緊急時に対応できるようにする。 危機管理マニュアルの見直し・改善を定期的に行い、教職員で共通理解を図る。	A A		
事務部	保健	定期健康診断や健康観察、健康相談、スクールカウンセリング、緊急時対応シミュレーション等を関係者と連携して行う。 感染防止に必要な物品の準備や安全点検など、感染症対策や校内美化、安全管理に関することを計画的に行う。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応が特に必要な幼児児童生徒について、全職員に周知し、適切な対応に努める。</li> <li>・資料提供等を通じて、性に関する指導の充実を図る。</li> </ul>
	事務	幼児児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、必要な措置を講じる。	B B		

学校関係者評価	
評価(総)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや不適切である
A	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各教室で電子黒板の活用、学習成果物の掲示など様々な視覚情報が保障されていた。ICTを使いこなす教員が子供の思考を促しながら学習効果を高める活用を心掛けてほしい。不易と流行を掛け、聴覚障がいの特性に応じた活用を今後も検討してほしい。</li> <li>■個別的教育支援計画や指導計画は、年度始と学年末に保護者に確認を行っているようだが、中間点でも確認をすより効果的になるのではないかと。</li> <li>■校外向けの掲示板を作って作品等を掲示するとよい。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニケーション力を高めるための保護者の関わりは重要なので子供への支援と同時に保護者への支援の充実も図ってほしい。</li> <li>■相談の中で保護者や子供同士がつながる場を調べてほしい。</li> <li>■乳幼児保育相談や就学や外部への支援につながっている。</li> <li>■家庭状況に配慮した卒業後の進路指導の充実を図ってほしい。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校のセキュリティを高めてほしい。教員がけがをしないことも大切である。さすまたは常備されているか。火事だけでなく色々な場面を想定した避難訓練を実施し、状況に応じた避難ができることが大切である。非常食は消費期限を確認しながら、備蓄しておく必要がある。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オンラインでの研修機会も活用するとよい。</li> <li>■物価高、光熱水費の値上がり等を考えると、必要な経費の値上げは仕方ない。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■児童と年賀状のやり取りを行った、直接でなくても工夫すれば交流できることもある。次年度も地域との交流の仕方を検討して充実させてほしい。</li> </ul>

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 感染状況に応じて、学習活動や行事等の実施方法を適宜検討し、体験的学習や交流学習の充実を図る。
- 地域の聴覚障がい教育のセンター的機能として学校が果たす役割を全職員で共通理解し、相談支援活動の充実を図る。
- マニュアルの見直しと訓練等の実施により、職員の危機管理能力を高め、安全安心な学校づくりを目指す。
- 情報発信の仕方をさらに工夫し、学校の広報や理解啓発につなげる。

